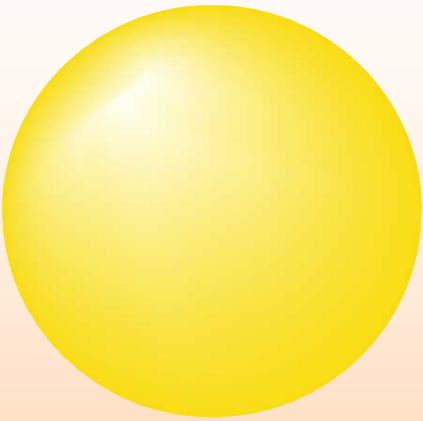
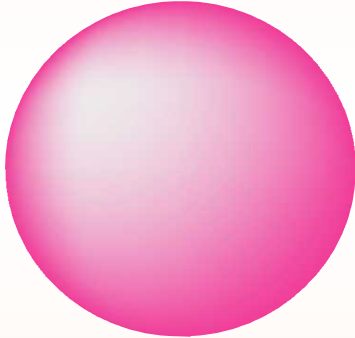


テーマ別まちづくりアイデア



住みやすいまち

取組みの方向性

地域と接点を持ち、安心・安全の輪を広げていくために・・・

- * ひとりひとりがお隣近所と朝夕にあいさつをかわしましょう。
- * 「わざわざ」でなくても、日常生活の中で地域とつながる瞬間に、地域に目をやり、ちょっとした気配りをして、安心・安全に協力しましょう。
- * “いざ”に備えて地域のさまざまな情報を得ておきましょう。
- * これまでに交流が少なかった人や世代間の交流機会をつくりましょう。
- * 各地域で取組まれているよい活動は、全区に広げていきましょう。

私たちが注目したこと

子どもが被害者になる事件がよくテレビ報道されています。城東区内でも、ひったくりや痴漢、空き巣が発生しています。集中豪雨や地震などの天災による災害も日本各地で起きており、城東区でもいつ起こるかかわからない、という不安を誰もが抱えています。

古い住宅地では、住民の高齢化が進み、一人暮らしの高齢者もいます。新しく建てられたマンションには若い子育て世代がたくさん入居してきて、元気な子どもの声が響きわたっていますが、親元から離れて暮らしている世帯では、子育ての不安を抱えている人もいると思われます。

近年は、高齢者のための健康づくり活動や子育て支援などが、身近な地域で取組まれるようになってきました。駅などのバリアフリー化はかなり進みましたが、路肩の駐車車両や歩道の段差・傾斜など、車椅子では通りにくい道はまだ多く、出かけるのが不安になることもあります。また、高齢者や障害者が利用しやすいトイレもまち中にそれほどたくさんあるわけではありません。誰もが元気に暮らしていくためには、外出や人との交流は重要です。安心して外出できるまちであることが求められていると思われます。

住民ひとりひとりが、ちょっと隣近所の人に気配りをし、自治会や地域の活動・行事を通じて、「お互い様」の気軽な助け合いができ、困った時にはきちんと専門的な支援を受けられる。誰もが安心して家の外に出て、人との交流の時間がもてる。城東区がそのようなまちになったら、子どもも高齢者も障害者も外国人も住みやすくなるだろうと思います。

まずは、みんなでこんなことに
取り組んでみませんか？

防災リュックを背負って避難ルート・避難所ウォーキング・リュックの点検・防災対策のアンケート調査

防災班への若手登用のための人材育成

子ども 110 番
自転車ステッカーの協力者をひろく募集

全区一斉
ふれあい清掃
Day

防 災

- ・ 地域ぐるみでの家庭防災計画づくり
- ・ 一人暮らしの高齢者や障害者などの避難を支援する体制づくり

バリアフリー

- ・ 各施設の屋内外での安全な移動経路の確保
- ・ いざというとき、放置自転車も障害になることの啓発
- ・ 車椅子対応トイレの増設
- ・ マナー向上に必要な取組みの検討

防 犯

- ・ 地域ぐるみでの声かけ運動の実施
- ・ 警察等と連携し、地域ぐるみの見守り活動の支援を検討
- ・ 街灯の増設、防犯カメラの設置

地域での防災ボランティアの育成

町会単位で、防災リーダーを中心に、若い人にも参加してもらい安全確認や災害弱者の救護活動ができる体制 = 防災班をつくる

- ・ 家具の転倒防止、防災グッズの常備・点検など各家庭での防災対策をアンケート調査するなど、地域ぐるみで各家庭での防災力アップに取り組みましょう。
- ・ 避難場所・避難経路の確認など、定期的に防災意識向上のための訓練をウォーキングとして実施してみましょ。
- ・ 町会会議、訓練ウォーキング時などに防災に関する情報提供（防災グッズの展示など）をしていきましょう。
- ・ 「いざ」という時に安否や支援の必要性を確認してもらいたい人は、あらかじめ自己申告しておいてもらうシステムを検討しましょう。
- ・ 民生委員や老人会、配食サービスなどとの連携をはかり、「いざ」という時の連絡網を再点検・整備しておきましょう。

防犯パトロールボランティアの募集

自分たちのまちを自分たちで見守る体制を強化するため、防犯パトロールに参加・協力してもらえるボランティアを募ろう

- ・ 防犯リーダーや青少年指導員など、パトロールを実施している各組織・団体間の連携を密にし、地域の防犯情報がみんなにいきわたり、注意を促せる体制づくりを進めましょう。
- ・ 警察等と連携し、専門家の指導をうけながら、地域の安全マップづくりに各地域ごとに取り組みましょう。
- ・ 犬の散歩、ウォーキング、通勤時などを利用してパトロールをしてくれる個人・グループを募りましょう。
- ・ パトロールしていることがわかるようなグッズを统一的に着用しましょう。

街の記憶を引き継ぎ、花と緑の美しいまちにしよう！

取組みの方向性

私たちのまちにある「川」「遊歩道」「歴史を感じるまちなみ」「伝統行事」や花と緑のまちづくり活動など、地域資源を活かして・・・

*点在している地域の魅力を花や緑で飾られた“ガーデンロード”でつなぎ、仲間の輪を広げましょう。

*よりたくさんの人とわがまちについて語りあい、地域に引き継がれてきたものをまちづくりに活かしていきましょう。

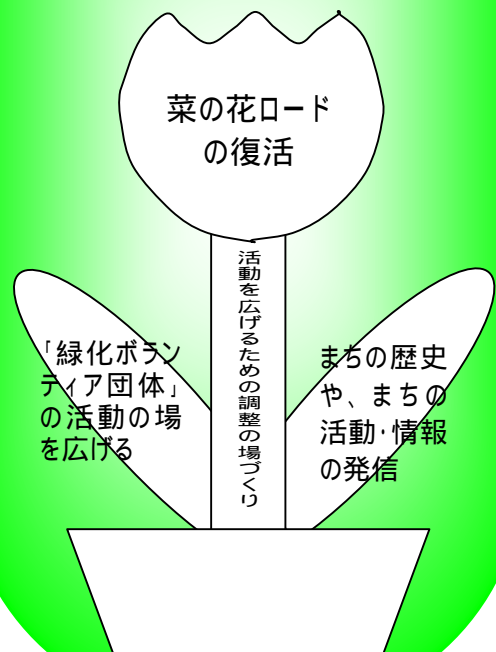
*より広い範囲で交流機会をつくり、美しく、物語りのある楽しいまちにしましょう。

私たちが注目したこと

城東区は、東西に寝屋川、第2寝屋川、南北に城北川、平野川、平野川分水路が流れる河川の多いまちです。過去には、この河川の水を活かして農業が、水運を活かして大規模な工場が立地し、発展してきました。戦後、榎並川、鯉江川が埋め立てられ道路になり、楠根川、千間川は公園になり、工場が住宅地にかわりました。大規模な集合住宅群があちこちにあり、緑や児童公園が整備された良好な居住空間が広がっている地域もあります。城北川遊歩道は、市民の散策ルートとなっていますが、他の河川では整備が不十分なこともあり、川は汚くてくさい、遠い存在となっています。下水処理場などが多く立地しているため、広がりのある空間は多いのですが、一人あたりの公園面積は市内では最も小さくなっています。空間をもっと有効につかうことが必要だと思います。

歴史のある社寺仏閣や古い建物、町並みが残されているところもあり、だんじり祭りが行われている地域もあります。生活に便利な商店街も身近にあります。しかし、まちのシンボルとしてみんなが誇れる場所・ものがありません。城東区にある「いいもの」「歴史」「文化」を組み合わせ、城東区らしいまちをつくっていくことが大切だと思います。

まずは、みんなでこんなことに
取り組んでみませんか？



城東区のシンボルづくり = 花いっぱいのもち

- 各家庭で地域のために1鉢の花を育てる運動に取り組みましょう。
- まちのシンボルとなる道（モデルロード）をつくってみましょう。
- 四季の花が咲き、我が家の庭のように楽しめるガーデンロードを実現しましょう。

公共施設や駅などに区民花壇をつくり、コンテストを開いてみよう

城北川遊歩道を季節ごとに花で飾り、魅力をアップさせよう

みんなで野崎街道を菜の花の咲く道にしよう

- 花と緑を愛する人が集う“城東区はなびとコスモスタッフの会”の活動をみんなに知ってもらい、活動の輪を広げましょう。
- いろいろな場所で緑化活動が展開できる条件整備を、行政と協働で進めましょう。



- 地域の歴史や地域資源を活かしたまちなみの保全・再現などで“アジ”のあるまちづくりを検討してみましょう。

JR 鳴野駅前をモデルに考えてみると、地域資源として「商店街」「人気のあるリハビリ病院」「障害者の作業所」があるので、「障害者と共生できるまちづくり」をテーマにして、

- 空店舗を利用したカルチャーセンター
- 障害者が運営する食堂、など ……ができればいいなあ

城東区で育つ子どもの記憶に残る四季のイベントづくり

- 今、城東区に引き継がれている歴史や、新しいけど次代に引き継いでいきたいものを再発見するため、「わがまち探検隊」を組織し、より多くの人に情報提供するためのマップづくりをしましょう。
- 四季折々に区民が参加できるイベントづくりをしましょう。



地域の魅力を発見し、人と人、人と情報をつなぐ役割を担う組織づくりに取り組みましょう。

城東区の今と昔、地域と地域、市内と市外をつなぐ“川”を見直そう

- キレイな川にするために、清掃や水を汚さない活動など市民でできることを考え、取り組みましょう。
- 城東区の治水の歴史と大阪の水の文化をまとめ、下水処理場に展示・学習コーナーを作りましょう。
- 区内に「水の回廊」をテーマとしたネットワークができないかを検討してみましょう。

音楽・芸術による潤いのあるまちの実現

取組みの方向性

それぞれの人を楽しんでいる音楽や芸術について、「まちの中でみんなと楽しみや感動を分かち合える」そんなひとときがあれば、人生がいっそう豊かになり、まちも華やぎます。そんな潤いのある時間と空間が、私たちが暮らす身近なこの地域で実現できるよう・・・

- * 音楽・芸術とふれあう機会をつくっていきましょう。
- * 子どもたちや一生懸命練習をしている人たちの発表の場を、もっとまちの中に増やしましょう。
- * 年に一度はみんなが気軽に参加できる音楽・芸術イベントを開催しましょう。

私たちが注目したこと

城東区は、音楽によるまちづくりを推進しています。区内のすべての中学校には吹奏楽部があり、熱心に練習に取り組み、コンテストへの参加や地域での演奏会など活発に活動しています。

また、区内に立地している大阪信愛女学院には音楽科があり、音響設備の整った講堂は、城東区民コンサートの会場ともなりました。

そして、「城東区音楽文化のまちづくり懇話会」が組織され、区役所のロビーやクレオ大阪東でのコンサートの企画・開催などを行っており、さまざまな人のステージを演出する取組みが広がっています。

しかし、一方でこのような場に足を運ぶ人は限定されており、誰もが気軽に、日常とはちょっと違う時間を楽しむという場にしていくためには、さらなる工夫が必要なのかもしれません。

音楽・芸術が趣味であるという人だけでなく、音楽・芸術を学ぶ人・学びたい人の発表の場、全く縁がなかった人が音楽・芸術にふれあう場を演出していくことで、生活が豊かになり、まちに潤いがでてくるのではないかと思います。

まずは、みんなでこんなことに取り組んでみませんか？

音楽・芸術を親しむ人のネットワークづくり

区民参加型の芸術祭・音楽祭の実施

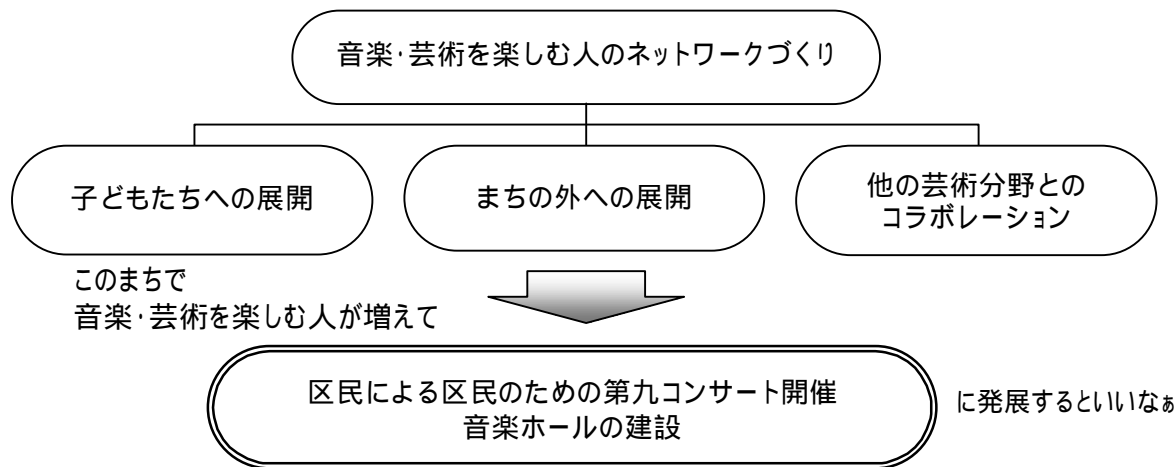
区民による第九コンサートの実現



～



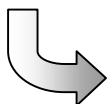
～



子どもの頃から音楽や芸術に楽しくふれあい、さまざまな経験ができる場づくり
子どもたちが取り組む音楽や文化活動をもっと多くの人に観てもらい、子どもたちが音楽・芸術とふれあう経験の場を増やしましょう。

まずは、

- ・ 小学校で取り組まれている音楽会や学芸会などをもっと地域にも開放し、全学校一斉に発表会などを開催してみよう。
- ・ どのような団体がどこで活動しているのかを調べてみよう。



- ・ 子どもオペレッタ、ミュージカルなどが、城東区として取り組めないか検討してみよう。

いろいろなスタイルで音楽・芸術に親しみ、人をつなぐ交流の場づくり
気軽に音楽や芸術にふれあい、いろいろな人と同じ時間と感動を共有しあうことができるよう、地域のさまざまな場所を活用して、発表会・交流会を開催しましょう。

まずは、

- ・ 教会やお寺、庭など地域のちょっと素敵な場所で、500円コンサートを開催してみよう。

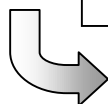


- ・ ストリートライブWEEK
- ・ ミニ野外音楽堂の仮設設備を公園につくる。
など、新しい演奏会を企画してみよう。

いろいろな分野の芸術・文化に親しみ、人をつなぐ交流の場づくり
いろいろな分野の芸術・文化に親しむ人が、他の分野の芸術・文化との交流を図り、城東区の中で、より豊かな芸術・文化活動が展開されるよう、コラボレーション型の活動を展開してみましょう。

まずは、

- ・ 音楽会、コンサート、絵画展、写真展、生け花展など、単体で行われていた発表会や展示会を組み合わせる機会を増やし、ネットワークを広げよう。



- ・ 「テーマ」をいろいろな表現方法でとらえた作品コンテスト
- ・ さまざまなパフォーマンスの合同発表会
など、多分野コラボレーション型の新しい企画に取り組んでみよう。

青少年がのびのびと育つまち

取組みの方向性

このまちで暮らす子どもたちが元気にのびのびと遊ぶことができ、地域の人に見守られ、安心して暮らせるように・・・

*大人と子どもの交流のある地域づくりをしましょう。

*中学生・高校生が、地域のさまざまな人とのふれあいや活動、イベント等を通じて自分らしさをみつけ、将来の夢を育ていけるよう地域ぐるみで支援していきましょう。

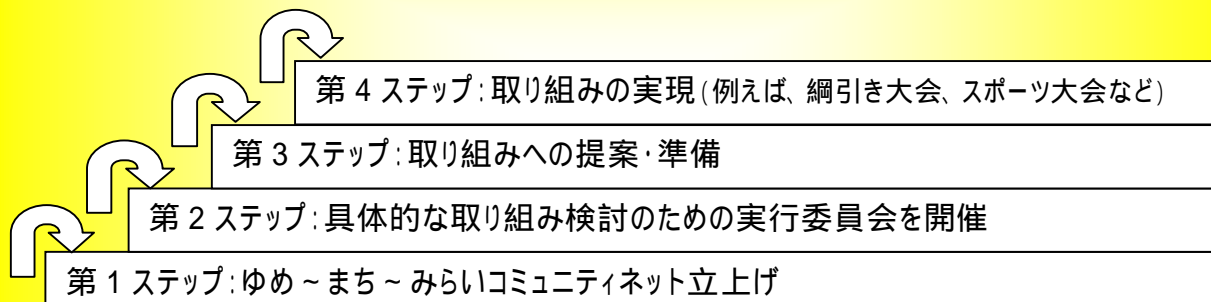
私たちが注目したこと

城東区は、マンションの建設ラッシュが続き、子育て世代が転入し、子どもの数も増えていきます。トモノスや児童館、保育所などでは子育て支援にも取組まれるようになりました。小学校では児童いきいき放課後事業が、トモノスや児童館では放課後の居場所づくりの活動が行われています。しかし、夢にむかって大きくはばたこうとする年代である中学生・高校生については、学校と塾以外に地域には居場所がないのではないのでしょうか。コンビニや公園に集まっていると、周囲からはけむたがられる現状もあります。しかし、仲間同士、あるいは先輩世代や親以外の大人とのコミュニケーションは、彼らの視野を広げ、多様な価値観を理解し、自分らしさをつくるうえで、重要な場といえるのではないのでしょうか。

中学校ではクラブ活動がしたくても指導者不足のためクラブ活動ができないケースもあります。またクラブに入っていない中学生・高校生もいます。城東区は公園も少なく、またボール遊びができるような運動公園も非常に少ない状況にあります。中学生・高校生が自分自身の将来を考える場や経験も少ないのではないのでしょうか。

人づくりはすぐに成果が出るものではありません。ひとりひとりのために、継続的に取り組んでいくことが重要です。厳しい社会情勢の中で次代を担う世代が、のびのびと育っていく環境づくりに、学校や行政とともに、地域のさまざまな人材が、かかわっていける仕組みづくりに取り組むことが必要だと思えます。

まずは、みんなでこんなことに取り組んでみませんか？



その1：青少年に関わる団体間の連携

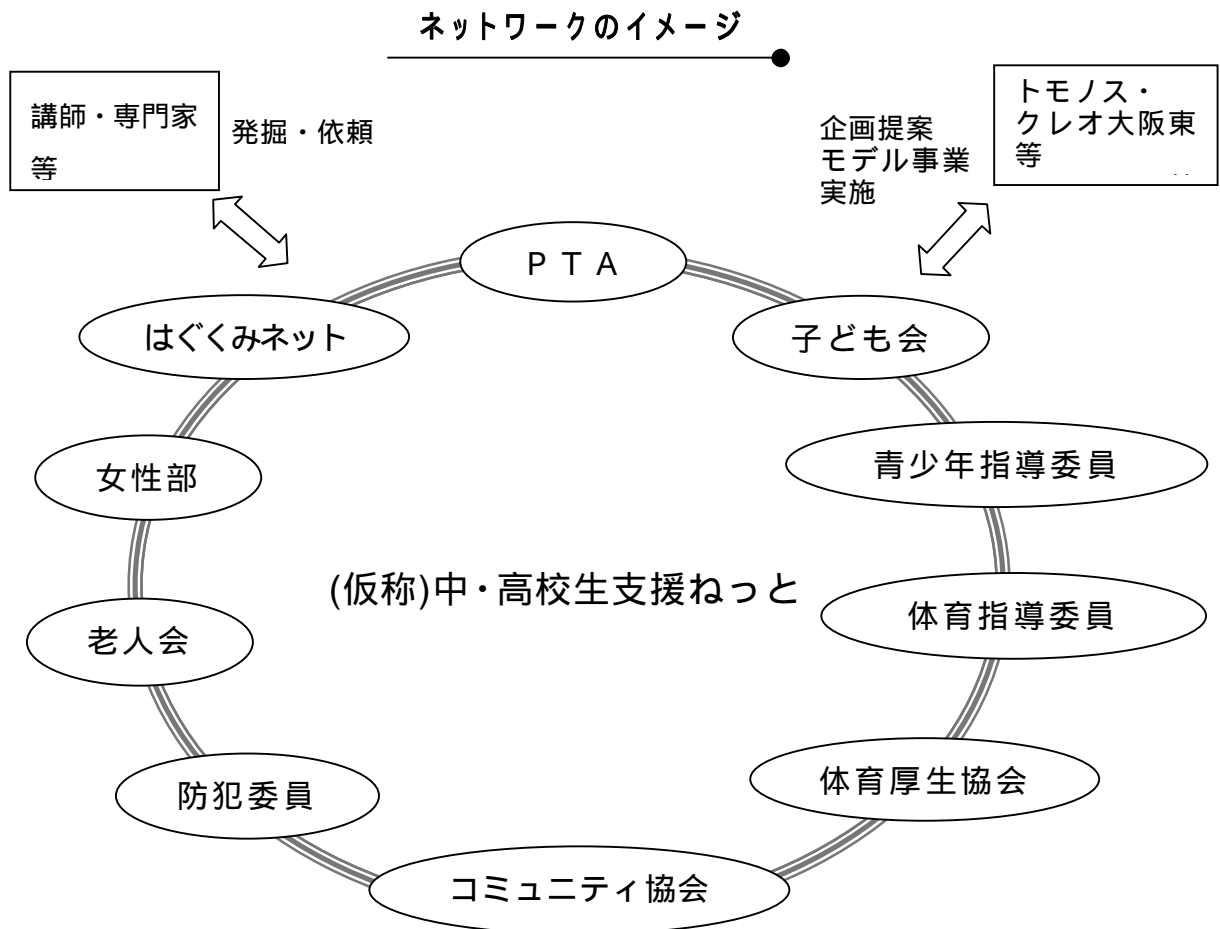
「ゆめ～まち～みらいコミュニティネット」が青少年に関わるいろいろな団体に呼びかけて、情報交換や人材交流を活発化させ、青少年が抱えるさまざまな課題に継続的に取り組める体制づくりをしていこう。

まずは、

- ・ 青少年に関わる団体が一堂に会して、各地域での課題や青少年向けに取り組んでいる事業に関する情報交換を行う。
- ・ 「支援ねっと準備会」を設置し、組織づくり、モデル事業に取り組んでみる。

- ・ 先進的な取り組みをしている地域について、もっと学習しよう。
- ・ 中・高校生が参加できるイベントやプログラムの情報を全区的に配信していく方法を具体的に検討し、「参加の場」をつくらう。
- ・ 青少年にスポーツや文化活動の指導を行う人材を確保する方策を検討しよう。

目標：継続的な活動になるような仕組みをつくる

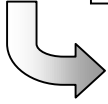


その2 ; 学校施設を核とした交流

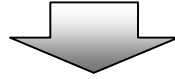
いろいろな人が暮らす住宅地の中にある学校が、地域の交流の核として機能するような環境整備を進めよう。

まずは、

- ・ 小学校や中学校の体育施設を新たに地域で活用できるかを調べてみる。
- ・ どのような団体がどこで活動しているのかを調べてみる。



- ・ 生涯学習ルーム等での諸活動、文化サークル活動。
- ・ 「校庭の芝生化活動」等について、学校と地域の連携を強化。
- ・ 既存のスポーツクラブの活動、地域型スポーツクラブづくりの動き。
などを通じて、学校施設を核とした具体的な諸活動に、より多くの参加者を呼びかけ、地域のネットワークを広げる。



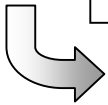
目標：高齢者や障害者、子どもなどさまざまな年齢の人が交流できる場をひろげる

その3 : 中・高校生のための地域学習プログラム

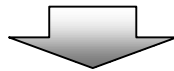
将来の自分をいろいろ模索している中・高校生が、さまざまな大人との交流と、「自分でやる」「仲間と協力してやる」という経験を通じて、自分らしさをみつけていけるような場づくりに取り組みましょう。

まずは、

- ・ 中学校対抗(連合対抗)運動会を開催し、クラブをしていない生徒の活躍の場をつくらう。
- ・ 既存クラブやサークルの活動で、開放デー・お試し入会日などを設けてもらい、中・高校生が体験参加できる機会をつくってもらえるような呼びかけを行おう。



- ・ 地域で取組まれている諸活動・イベントに中・高校生が役割を担って参加できるよう検討しよう。
- ・ 地域にいる様々な職業の人の力を集めて、中・高校生が職業体験できるような講座づくりに取組もう。



目標：中・高校生が自分で考え、主体的に活動をつくっていく「居場所」づくりを支援する

中・高生の居場所づくりのイメージ

